

そうごう薬局における外来がん薬物治療患者への保険薬局クリニカルパスを用いた支援

吉田 志保

総合メディカル株式会社 そうごう薬局天神中央店

そうごう薬局天神中央店(以下、当薬局)では、2012年より患者担当制を導入し、がんに関する専門知識をもった薬剤師が継続して対応している。外来がん薬物治療患者に対して、「患者にとって最適な治療の効果を最大限に引き出し、副作用を最小限に抑えることで治療の継続を支援すること」を目標としてケアを行っている。

そのために、外来がん薬物治療患者が、抗がん剤の用法・用量・スケジュールを理解し間違いなく服用すること、抗がん剤の副作用を理解して対策を実施し、重症化を防ぐことが必要であると考え、薬剤師間で対応の質に差が生じないように標準化を行った。また、患者個々の治療目的や苦痛、気持ちの変化に着目することも、長期的・継続的に対応する保険薬局において不可欠と考え、それらを組み込んだ「外来がん薬物治療患者における保険薬局クリニカルパス」を作成し運用している。

患者の気持ちに寄り添う取り組みとして当薬局では2013年より「がん対話カフェ」という毎月1回、少人数で1回2時間程度話をする会を開催している。ここでは、がん患者の様々な想いを傾聴し、治療に対する理解を深めることや患者が最も大切にしたいことを一緒に探っていくことで患者の気持ちの整理を行い、必要に応じて個々の患者に合ったアドバイスをを行うようにしている。その中で患者が抱える不安や悩みなどが治療に影響を及ぼしていることが分かった。そのため、日々の対応時においても、患者の心理状態に着目し、患者の気持ちの変化を読み取るようにしている。そして、対応時における患者の気持ちが治療の妨げとなっていないかを判断し、現在の治療状況や生活環境の変化、患者個々の性格、ならびに患者の心理状態が治療に対して受容の段階か、拒否の段階かなどを考慮し、状況に合わせたケアを実践している。

本シンポジウムでは当薬局の取り組みの概要を紹介し、保険薬局の薬剤師として外来がん治療患者の気持ちにどう寄り添っていくのかをディスカッションを通じて皆様と一緒に考えていきたい。